

ギャングエイジ

原作・阿部夏丸 脚色・いずみ凜
演出・中島研 音楽・曲尾友克 制作・西川典之



ぼくはギャングになる!

元気で明るくクラスの人気者のエイジ。ある出来事をきっかけに、突然「らんぼう者」呼ばわりされてしまう。他者との関わりや評価、徐々ににはめられていく粹…。とまどいながらも自分を貫く決心をしたエイジが見た景色とは・・・

制作にあたって

子どもはしたたかだ。どんな時代であっても、どんな状況が襲ってきても、それを子どもたちの力で上手に乗り越えてきた時代があった。もしかしたら、今の子どもたちだって、自分の力で克服していく力を持っているのだろう。いや、持っているはずだ。実は今の大人社会のほうが、子どもたちを許容することができるかどうかが問われているのではないだろうか。目の前にいる子がどうしたいのか、どうありたいのか、何故そうするのかより、その子の行動が世間の常識からはみ出していないかどうか基準になり、拳句の果てに子どもが動くより先に管理や制限をしてしまう。大人の子どもへのまなざしが子どもに寄り添うものであった時、初めて子どもたちが生きる輝きを放つはずなのに。

作家の阿部夏丸氏は語ってくれた。「子どもたちは、どうのこうのと評論する大人が一番信用できない。本質は昔も今も何にも変わっていないんですよ。変わったのは、大人社会のありようなんです。だから、僕らはとことん子どもたちを信頼していきましょうよ。」

「ギャング・エイジ」英二を中心に、その仲間たちが、彼らを取り巻く現実に向かい合い、立ち向かっていくことができるのか。それは、私たちのこの時代への挑戦かもしれない。



劇団 風の子中部

☎058-215-7780

Home Page



Face Book

